



ほんじつ ～本日のおすすめの本34～



『シグナルとシグナレス』宮沢賢治童話集「注文の多い料理店」より

みやざわけんじ さく 角川つばさ文庫(2010年初版)

*この本は9番の書棚にあります。(貸出可能)

宮沢賢治が住んでいた岩手県の花巻駅には、これに接続するローカル鉄道で、釜石方面へのびる岩手軽便鉄道(今の釜石線)がありました。

この物語は、二つの鉄道の沿線に立っていた最新式の鉄道信号機シグナルと、古い木製の信号機シグナレスの大恋愛物語です。(シグナルもシグナレスも宮沢賢治が作った言葉です。)

信号機が恋に落ち、結婚を誓いあうおはなしに笑いを感じる部分と、人間の感情を重ねて人を愛するという切なく一途な思いに胸が熱くなる部分があります。

霧の深い夜明けを舞台に、二人が交わす言葉と、赤や青やオレンジに点滅する光が、人間の感情おきかえられて描かれています。

決して結ばれることのないシグナルとシグナレスですが、だからこそ、同じことを夢見るのかもしれないね。

(本文より抜粋)

「シグナレスさん、どうかまじめで聞いてください。僕、あなたのためなら、次の十時の汽車が来るとき、腕を下げないで、じっとがんばり通してでも見せますよ。」

「あら、そんなことはいけませんわ。」

「もちろん、いけないですよ。(中略)けれどもそんなことでもしようというんです。……」



……さあ、そして、この二人の大恋愛を皮肉って邪魔する「シグナルつきの電信柱」や、応援する「倉庫の屋根」の言葉から、身分違いの恋と不平等な立場が感じとれますよ。ぜひ、読んでみてください。



6年生ぐらいから読めます。

6年生が国語「やまなし」「イーハトーヴの夢」で宮沢

賢治を学習します。ミキハウスから出版されたとても

きれいな絵本をたくさん用意しました。宮沢賢治の作品

を絵本で読める良いチャンスです。